

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
務	ムつとめる つとまる 教5常①		𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎
				𠄎			𠄎	𠄎	𠄎
勤	キンゴン つとまる つとめる 教6常①		𠄎	𠄎		𠄎	𠄎	𠄎	𠄎
勤	人③		𠄎	𠄎		𠄎	𠄎	𠄎	𠄎
勝	ショウ かつ まさる たえる 教3常①		𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎
勝			𠄎	𠄎		𠄎	𠄎	𠄎	𠄎
募	ボつ のる 常①		𠄎	𠄎		𠄎	𠄎	𠄎	𠄎
勸	カン すすめる 常①		𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎
勸			𠄎	𠄎		𠄎	𠄎	𠄎	𠄎
勢	セイ いきおい 教5常①		𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎
			𠄎	𠄎		𠄎	𠄎	𠄎	𠄎
			𠄎	𠄎		𠄎	𠄎	𠄎	𠄎
			𠄎	𠄎		𠄎	𠄎	𠄎	𠄎

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
務	勢	務	務	勢	務		務	務	勢	務	務	務
藤原行成	家童蒙解	力9			教科書<俗>							現代中国
勤	勤	勤	勤	勤			勤	勤	勤	勤	勤	勤
元暦萬葉①	家道訓	力11								×		現代中国
勤	勤											
元暦萬葉②	消息往来											
勝	勝	勝	勝	勝	勝		勝	勝	勝	勝	勝	勝
元暦萬葉④	節用	力10			教科書<俗>					×		江戸五経<通> 現代中国
勝		勝	勝	勝								
粘葉本朗詠		古文										
	募	募	募	募			募	募	募	募	募	募
	節用	力11										上代・玉葉集 現代中国
勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸	勸
粘葉本朗詠	開化一寸用文	力17			教科書<俗>							現代中国
勢	勢	勢	勢	勢	勢	勢	勢	勢	勢	勢	勢	勢
元暦萬葉①	絵本通俗 三國志	力11			教科書<俗>							干祿<俗> 現代中国
勢	勢			勢	勢				勢			
元暦萬葉①	節用				明治の漢字							

【務】「力」を下部中央に書く移構の文字が日本にはある。「支」は「攴」に変化するが「攴」に誤ることがある。弘道軒が「攴」に誤った字体。現代中国も「攴」の字体。
【勝】干祿字書で偏の「月」の中が横線なのを五経文字で点に訂正している。康熙字典も文部省活字も同様に点。当用漢字

表もこの図版でははっきりしないが点であったとされる。
【募】康熙字典ではこの字のくさかんむりを4画に数える。
【勢】説文篆文ではなく、新附で追加された。左上の部分に様々な字体がある。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
勳	クン いさお								勳 勳 勳 勳 勳
勳	人②								勳 勳 勳 勳 勳
勺	シャク								勺 勺 勺 勺 勺
勺	人→新①								勺 勺 勺 勺 勺
勺	教5 常①								勺 勺 勺 勺 勺
勺	におい におう								勺 勺 勺 勺 勺
勺	人→新①								勺 勺 勺 勺 勺
勿	モチ ブツ なかれ なし								勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿
勿	人①								勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿
勿	もんめ								勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿
勿	常→人①								勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿

【勳】「眞」に従う字体があり、後にもまれに書かれることがある。

【勺】もとは「句」の異体字だったようである。干祿字書は「勺」を〈通〉、「句」を〈正〉としている。「句配」の「勺」という用法は江戸期になって見られる。江戸期には「句」の

「口」を点とする字体の使い分けも現れる。江戸期は「句」と「勺」の字体が衝突する。北魏では「句」の字種として「勺」の字体を使うことが圧倒的多数派だが唐代になると「勺」の字体は見えず、「句」に統一されている。法華義疏は「勺」の字体を書いているので唐代よりも古い時代の字体の影響を受

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												勳 勳 勳 勳 勳
												勳 勳 勳 勳 勳
												勺 勺 勺 勺 勺
												勺 勺 勺 勺 勺
												句 句 句 句 句 句 句 句 句 句
												句 句 句 句 句 句 句 句 句 句
												句 句 句 句 句 句 句 句 句 句
												句 句 句 句 句 句 句 句 句 句
												勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿
												勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿
												勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿
												勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿
												勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿
												勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿 勿

けていると思われる。
【句】国字。平安時代以降に使用例が確認できる。小野道風「屏風土台」では「勺」の字体を書いている。
【勿】国字。江戸時代以降に使用例が確認できる。文部省活字では「勿」の部首に分類されている。2010年に常用漢字か

らはずされ人名用漢字になった。
※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
包	ホウ つつむ								篆隸萬象名義
包									信行禪師碑
化	カケ ぼかす ぼける かわる								法華義疏
化									王勃詩序
北	ホク きた にげる								法華義疏
									元有墓誌
匙	シ セ ギ								
匣	ソウ								廋金人 交名帳
市									無量義經
									篆隸萬象名義
									佚名白詩

【包】正字は「包」で、隸書でも「包」。唐代以降は「包」「匚」どちらの字体も書かれてきた。当用漢字表では「匚」だが当用漢字字体表で「包」に変更された。変更する必要があったのだろうか。当用漢字字体表の発表時点で岩田母型に「匚」の字体はなかった。

【化】古代の文字および説文篆文に照らせば「化」ではなく「匕」が正字であり、手書きでも正字が多く書かれてきた。康熙字典の字体は不自然。
【北】手書き書体で、偏の縦線が下に突き出ることはない。正字体の多い文部省活字でさえ偏の縦線は下に出ていない。当

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
											包 現代中国
											化 現代中国
											北 現代中国
											匙 現代中国
											匣 現代中国

用漢字字体表の字体は康熙字典など明朝期の字体である。五て「匚」と解釈されたものだろう。
経文字の字体は偏の払いが右に出ない。
【匣】「市」が元の字らしい。南北朝期に「市」に「しんにょう」が加わった異体字が現れる。「匣」は「しんにょう」を「匚」のように書いたものと「市」の1画目の横線とが合体し

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
匡	キョウ ただす 人①								聖武天皇雜集
									聖武天皇雜集
匠	ショウ たくみ 常①								法華義疏
									聖武天皇雜集
									聖武天皇雜集
									聖武天皇雜集
匪	ヒ ①								聖武天皇雜集
									聖武天皇雜集
区	ク 教3常①								王勃詩序
									王勃詩序
匹	ヒツ ひき たくい 常①								聖武天皇雜集
									聖武天皇雜集
疋	ひき あし 人①								聖武天皇雜集
									聖武天皇雜集

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考

【匡】南北朝期以降は「主+L」の字体が多数派。五経文字〈隸書〉は「匚」に点があるが、江戸期の版本版の五経文字には点がないので、この点は石の欠けだろうと思う。
【匠】中国の南北朝から日本の中世まで「匚」の「L」を「し」と誤った字体が多数派。

【匹】「L」を「し」と誤った字体がある。「疋」と「匹」は異体字として扱われることがある。五経文字では「疋」を〈訛〉としている。現代中国では「疋」と「匹」を統合して「匹」のみを使う。「疋」は「足」と字体が同じになることがある。江戸版本に「区」の字体がある。